

授業科目名	幼児理解	担当教員名	松田 智子
科目区分	教職・保育に関する科目	施行規則に定める科目区分 等	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目-幼児理解の理論及び方法 / 保育の内容・方法に関する科目
必修・選択/単位数	必修 / 1単位 (15時間)	授業方法/担当形態	演習 / 単独
開講学年/学期	後期 (4期) / 年間開講数 2講座	特記事項	※実務経験のある教員等による授業 保育所所長、保育士として長年にわたる実務経験を活かして、具体的な実践記録を紹介して授業を行っている。 ※「子どもの理解と援助」の指導内容を含む
授業の概要及び全体目標	・保育の基本を踏まえ、子ども理・保育の基本を踏まえ、子ども理解（幼児理解）の意義と重要性を学ぶ。 ・「子どもを理解する」意味とは何か。子どもが見せる姿や行為、育ちを読み取り理解するためには、どのような視点から何をとらえていく必要があるのか。 また、「子どもを理解する視点やまなざし」を深め、より確かな「子ども理解にもとづいた援助」について、グループ討議や演習等により理解を深め保育の方法を追及していく。		
到達目標	1-幼児理解の理論及び方法 (1)幼児理解の意義と原理：幼児理解についての知識を身に付け、考え方や基礎的態度を理解する。 ①幼児理解の意義を理解している。 ②幼児理解から発達や学びを捉える原理を理解している。 ③幼児理解を深めるための教師の基礎的な態度を理解している。 (2)幼児理解の方法：幼児理解の方法を具体的に理解する。 ①観察と記録の意義や目的・目的に応じた観察法等の基礎的な事柄を例示することができる。 ②個と集団の関係を捉える意義や方法を理解している。 ③幼児のつまずきを周りの幼児との関係やその他の背景から理解している。 ④保護者の心情と基礎的な対応の方法を理解している。 2-子どもの理解と援助 (1)保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達 や学びを把握することの意義について理解する。 (2)子どもの体験や学びの過程において子どもを理解する上での基 本的な考え方を理解する。 (3)子どもを理解するための具体的な方法を理解する。 (4)子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。		
テキスト	・「子どもの理解と援助」 井戸ゆかり編著 (萌文書林) ・「平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本」(チャイルド本社)		
参考書・参考資料等	・「子ども理解とカウンセリングマインド」(萌文書林) 青木久子、間藤 侑、河邊貴子著 ・その他授業中適宜紹介する。		
成績評価の方法	授業後のワークシートでの理解度チェック毎回 (50%) レポート(30%) 受講態度積極性(20%)		
授業外（事前・事後）学習の方法、オフィスアワー等	事前学習については毎回の授業後に指示する。授業中のワークは毎回提出し、次の時間に返却する、その時に疑問点や多い間違いについては、解説を行う。 オフィスアワー 授業終了後(研究室) 質問事項を質問シートに記載し、学務室経由で事前に提出すること。		
授業計画	授業の内容		到達目標番号
第1回	・オリエンテーション ・子どもの実態に応じた発達や学びの把握 保育における子ども理解の大切さ 子ども理解に基づく養護及び教育の一体的展開 子どもに対する共感的理解と子どもとの関わり方		(1)-①,②,③
第2回	・子どもを理解する視点 … 子どもとのかかわりから 子どもの生活や学び 子ども相互のかかわりと関係づくり 集団における経験と育ち 葛藤やつまずき 環境としての保育者と発達		(2)-①,②,③,④
第3回	・子どもを理解する視点…保育の環境から 保育の環境の理解と構成 環境の移行や変化 生涯にわたる生きる力の基礎を培う		1-(2)-①,②,③,④ 2-(1),(2)
第4回	・子どもを理解する方法 子どもの心身の発達を理解するには 記録・省察・評価 職員間の対話 保護者との情報の共有		2-(1),(2)
第5回	・子ども理解にもとづく発達援助 発達の課題に応じた援助と関わり 発達援助における協働		2-(3),(4)
第6回	・課題等をグループ討議・発表		(1)-①,②,③ (2)-①,②,③,④ 2-(1),(2),(3),(4)
第7回	・子ども理解にもとづく発達援助 特別な配慮を要する子どもの理解と援助 発達の連続性と就学絵の支援		2-(4)
第8回	・まとめ 質疑応答 ・理解度、到達度チェック		1-(1)-①,②,③ 1-(2)-①,②,③,④ 2-(1),(2),(3),(4)